

周旋家日記⑩「PBL シンポジウム発表報告『PBL ベースド大学改革』—その2—」

乾明紀

4. プロジェクト科目導入前夜

2014 年度の全学的な学部改組に伴いキャリア形成学科の教育内容も大胆に変更されようとしていた。マネジメント力の習得を教育目標の柱に掲げ、改組の目玉としてプロジェクト科目の必修化が計画されていたのである。既に多くの大学でプロジェクト型科目が導入されているが、キャリア形成学科では 3 年間の必修科目として実施されようとしていた。私の知る限り文社系において、3 年間の必修化は珍しく、女子大学に至っては類を見ない試みであろう。「デザートではなく、メインディッシュとしての PBL」¹が提供されようとしていたのである。



2013 年度までの学科紹介サイト

¹ 日本 PBL 協会の清水計雄代表理事によると、日本で行われている PBL の多くは、カリキュラムの中心に置かれていないものが多く、その状況をこのような表現で筆者に説明された。

キャリア形成学科がこのような大胆なカリキュラム改変に挑んだ理由は次の 5 つであった。①プロジェクト推進は、マネジメント力を習得する効果的な方法論である。②多様な授業で学んだ知識をプロジェクト推進で活用することで、その定着を促すことができる。③プロジェクト推進で認識した必要な学びを他科目で深化することができる。④依頼先やステークホルダーへのアウトプットを通じて、社会貢献への意欲向上が見込める。⑤キャリア形成意欲、自己肯定感の向上が見込める。

このように多様な学生をプロジェクトにより駆動 (drive) させ、学科の教育目標 (centrality) であるマネジメントの知識とスキルの習得を目指そうとしたのである。

しかしながら、学科にはプロジェクト推進に向けた課題がいくつか存在した。まず、プロジェクト科目を実施するために必要な実践と理論を専門とする教員が 1 名しか在籍していなかったことである。必修化するためには指導体制の充実と組織的な指導法の確立が急務であった。また、4 年間必修であるゼミとの相補性、連動性も未確定であった。いずれも、学科カリキュラムの中心 (centrality) で PBL が実施されるが故の課題であった。

このような事情によりカリキュラム・マネジメントと PBL 推進に実績のある教員の採用が計画されたのである。

5. 採用と PBL 実施に向けた環境づくり

2012 年の 6 月ごろ、教員採用等についての相談があった。当時、立命館大学の研究員として働きつつ、浄土真宗大谷派の寺院の大きなプロジェクトを推進していたが、

職員時代からやってみたくは思っていたことができる可能性があることと、浄土真宗大谷派系列の大学からお声をかけていただいたことに不思議なご縁を感じ、2013年4月より奉職することにした。

さて、奉職後はPBLと新カリキュラムの実施に向けて様々な手を打つ必要があった。まず、内部教職員の動機づけのためのPBL研究会の開催である。研究会では、外部のPBL研究者、高校教員、企業のプロジェク
トマネジャーなどをスピーカーに招き、PBLの魅力や可能性を大いに語ってもらった。また、スピーカーの期待を受けるかたちで、大学が目指すPBL教育の意図を説明（宣言）することもおこなった。このような外部との交流を通じて、PBL推進は社会的な要請に応えるものであることを内外に示そうとしたのである。さらに、講演形式の研究会だけでなく、ワークショップ形式による研究会を月1度程度開催し、プロジェクトを通じたマネジメント教育の具体的な方法論についても理解が深まるように工夫した。これらを通じて教職員にPBLへの動機づけを図ったのである。

同時に、カリキュラムの中のPBLの位置づけについての再確認もおこなった。プロジェクトが、マネジメント教育の核であり特色の一つであること、効果的なプロジェクト学習を実施するために最低でも2コマ連続で実施する必要があること、リフレクションを十分におこなうことが大切であることを訴えた。さらに、ゼミや他科目との相補性や連動性を高めるために、プロジェクト科目を担当する教員が、カリキュラム検討のワーキンググループに加わったり、1年生対象の基礎ゼミ教員を担当するなどの

体制づくりをおこなった。



2014年度の学科カリキュラム

このようにカリキュラム・マネジメントとしての開講形態の調整や体制づくりをおこなう一方、プロジェクト科目担当教員が連携できる体制づくりにも着手した。具体的には、研究会のワークショップなどにて教員間のコミュニケーションを増やしなが
ら、科目開講時に担当教員が過度な負担を強いられることのないよう、チームティーチングとして教育プログラムを開発・推進する体制を整えた。

最後に、PBL実行のためには、学生が駆動（drive）するリアルな課題を配置する必要がある。担当教員が相談の上、「大学のための学園祭の活性化」をプロジェクトテーマと定めた。

ここに掲載しているのは、高校生や保護者に郵送される2014年度の学科紹介チラシである。前年までの学科紹介サイトに比べプロジェクト活動が全面に出るようになった。広報活動においても、PBLによりマネジメント力の習得と向上がねらいであることを内外に示したのである。



2014 年度学科紹介チラシ

6. 学園祭活性化プロジェクトのねらい

ここで、PBLのテーマを学園祭の活性化としたねらいについても紹介しておこう。まず、学園祭という1回生の学生にとって身近なテーマを設定することで、学生がプロジェクト(マネジメント)の主体者であると感じられるようにした。さらに、学園祭の活性化というミッションを大学(学生サポートセンター)から学生に提示するで、学生は自分たちの手で地域貢献や大学の魅力増進にコミットしていくことになり、その結果として、学園祭を通して学生の活気が外部に発信されていく。このように我々の創り出す環境によって、学生は能動的に駆動し、学生のマネジメントによって大学の魅力と誇りが創られていくことをねらったのである。

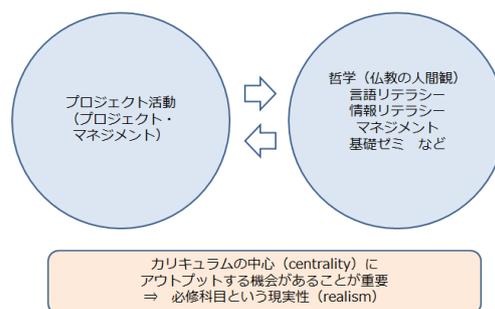
また、1回生を対象にした必修のプロジェクト科目であることから初年次教育としてのねらいに基づく関係性づくりもおこなった。まず、授業において構造化されたコミュニケーションワークを導入し、学科内で学生が相互依存する学生コミュニティが形成されることを目指したのである。さらに、大学をステークホルダーと説明することで、いわゆる「お客様状態」にならない

ようにし、プロジェクトについてのミッションと制約条件の提示、それらに応じたサービスの提供と発信により、自分たちの振る舞いが社会化されていくように工夫した。このような環境設定を通じて、教員と学生との関係は、対立や甘えの関係ではなく、「協同体」に変化していく。そして、教員と学生が共に大学文化を創っていくことができるのである。

7. プロジェクトは提供側の総合力が問われる取組み

PBLは、学習者である学生だけでなく、その学びを提供する組織や教員の総合力が問われる取組みである。カリキュラムの中心にプロジェクトというアウトプットの機会を置くからには、各科目の学びを有機的に関連づける必要があり、そのためには教員のマネジメント力やコミュニケーション力が必要不可欠となる。キャリア形成学科1回生の必修科目である基礎ゼミとプロジェクト科目の連携・連動を例に挙げれば、双方の科目を担当する教員が、週に1回程度のミーティングを開催し、学生情報を交換しながら、それぞれの科目において柔軟に教育内容や学生対応を変化するようにしている。

総合力が求められるプロジェクト



18 歳人口の減少と大学進学率の高まりの中で、教員には研究力以外の力も求められる時代となった。PBL を実践したい大学はますます増えていくだろう。しかし、教員にその能力がないと効果ある PBL の実践は難しい。筆者はこれまでの経験に基づき次の 3 つの力が必要であると考えている。

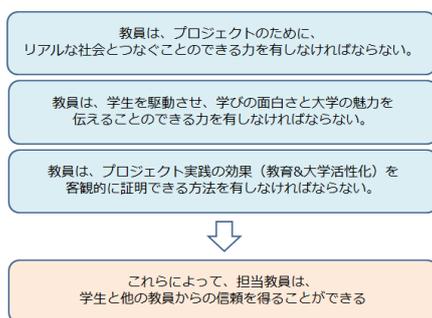
①教員は、プロジェクトのために、リアルな社会とつなぐことのできる力を有しなければならない。

②教員は、学生を駆動させ、学びの面白さと大学の魅力を伝えることのできる力を有しなければならない。

③教員は、プロジェクト実践の効果（教育&大学活性化）を客観的に証明できる方法を有しなければならない。

この 3 つの力を発揮することで学習効果の高い PBL が実行され、担当教員は、学生や他の教員、そして社会から信頼される存在になるのではないかと考える。

PBLのFD的側面



7. おわりに

以上が、平成 26 年 5 月 17 日におこなわれた第 2 回日本 PBL シンポジウム（日本 PBL 協会主催）²の講演報告である。多様な

²他の講演や当日の様子は次の URL にアクセスしてご確認ください。

学生に教育活動を通じて支援していくことやプロジェクトを通じて地域や人々の問題を解決していくことも“対人援助”であると捉え、このマガジンに執筆させていただいた。プロジェクト科目で学んでいる学生は、以下の日程でその成果は発揮する予定である。社会的な評価を受けることが実践的な学びの魅力であり、学生を駆動させる大きな原動力である。ぜひ、学生の学びの成果を見に来ていただきたい。

光華女子学園あかね祭

11 月 15 日(土)・16 日(日) 10:30-17:00

※開催時間は多少変更の可能性がございます

キャリア形成学科の学生は、現在、お化け屋敷・ゾンビカフェ・モザイクアート・アクセサリー販売・シークレットイベントの準備と広報活動などをおこないながら学園祭の活性化に取り組んでいます。下記 URL のキャリア形成学科学生情報ポータルサイトでも学生の準備情報をお伝えしていきますのでご覧ください。

<http://www.koka-career.jp/>

<http://www.pmai.or.jp/article/15067077.html>